

尼崎JR脱線事故から6年 日勤教育は苦痛・・・JR西が認める！

尼崎JR脱線事故から6年、事故の真相解明にむけて、当事者と一部遺族が共同で検討会「課題検討会」をつくり議論してきた。

このほど、その報告書がまとめられた。

日勤教育は脱線事故の要因の一部

JR西日本が行った脱線事故の分析によると、当該運転士のブレーキが遅れたのが第1要因である。その背景は、注意が運転から離れた事によると報告されている。直前に起こしたミスの日勤教育を懸念した運転士はそのミスを取り繕うために車掌に虚偽報告を依頼した。もはや正常な心理状態ではなかったのだ。そこまで追い込む日勤教育とは何なのか。ようやくJR西日本は、気がついたのだ。

現場の主張に耳を貸さないJR東海

私たちは、何度も会社に「日勤教育を直ちにやめろ」と主張してきた。しかし、会社は「必要な教育は行う」と回答するのみである。

必要な教育とは何？

JR東海で行われている「日勤教育」は、JR西日本と同様に、乗務員は苦痛と感じている。乗務員が苦痛と感じる「日勤教育」は直ちにやめるべきだ。

46 中日

尼崎脱線6年

日勤教育ダイヤも背景

JR西、遺族が共同検証

尼崎JR脱線事故6年に合わせ、一部の遺族でつくる「4・25ネットワーク」とJR西日本は二十五日、事故の真相解明と安全の再構築を目的に共同で議論した「課題検討会」の成果を公表した。JR西は事故時からさかのぼり、運転士の直前の心理やその要因を多角的・重層的に分析、組織の問題を浮き彫りにしたチャート図を初めて示した。

大規模事故をめぐり重ねた。JR西は、これまで被害者説明会や同様の見解を示した点も多かったが、関連資料を出すなど、より丁寧な遺族側の疑問に答えたい。

結果は二十五日午後、尼崎市内で遺族らが開いた集会で報告。4・25ネットの浅野弥三さんは「納得できない部分も随分残るが、JRに自ら事故を解明しようとする姿勢が見えた」としている。西川副社長は「遺族の冷静で粘り強い意思に胸を打たれた。ここで述べた反省は必ず改善をお約束する」と応じた。

報告書でJR西は、

脱線事故の原因に関するJR西日本の分析(一部を抜粋、簡略化)

当該運転士のブレーキ使用が遅れた
 ↓
 注意が運転から離れた

↓

車掌の交信に注意を払っていた
 ↓
 直前の伊丹駅でオーバーランしたが、車掌に虚偽報告を依頼

↓

日勤教育を懸念
 ↓
 日勤教育の内容や効果に問題点

↓

交信内容をメモしようとしていた
 ↓
 叱責(しっせき)を懸念

↓

列車の遅れをどう取り戻すか考えた
 ↓
 運転士を続けられなくなると懸念

↓

信賞必罰の社員管理

組織的問題として、現場カーブなどの潜在リスクを予知する仕組みを構築していなかったことを「最大の反省点」とした上で、ミス報告する環境が整っていないことがヒューマンファクター(人的)

「日勤教育」の理解・研究不足(足らぬ)も挙げた。日勤教育は「一部に苦痛と受け止められていた可能性があり改善すべき点があった」とし、運行時間に余裕のないダイヤは「運転士にあせりや動揺をもた

JR東海は、イジメ日勤教育を直ちにやめろ！